

緑化だより

No.121 平成28年10月号



タマゴタケ

10月 休園日はありません

- 季節の花(キンモクセイ)
- 野鳥の世界(コミミズク)
- 昆虫の話(秋を彩る赤)
- 研修会のご案内
- 展示会
- お知らせ・ご案内

ryokka 緑学の本
広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園
〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <http://ryokka-c.jp> E-mail hiroshima@ryokka-c.jp



季節の花

キンモクセイ

木犀や夕じめりたる石だたみ 芥川龍之介

キンモクセイ(金木犀、単に木犀ともいう)の原産地は中国です。漢字の「桂」(ケイ)は①肉桂など香木、②木犀、モクセイ科の常緑樹で芳香を放つ小花を開く、③月に生えているという伝説上の木、月桂などの意味があります。日本語の「桂」(かつら)は、これらとはまったく別の植物につけられた和名です。木犀の仲間は花色によって、丹桂、金桂、銀桂などに分けられ、キンモクセイの花は橙色で、丹桂にあたり、ウスギモクセイが金桂、ギンモクセイが銀桂にあたります。また、それらを総括して桂花ともよばれています。



キンモクセイの花

キンモクセイが日本へ渡来したのは、江戸時代中期、享保4年(1719)で、将軍吉宗の時です。したがって、『万葉集』や『古今集』など古い文献には、キンモクセイは出ておりません。花がたくさんつく雄株を、日本へ持ってきたので、現在あるキンモクセイはすべて雄株で、実はなりません。キンモクセイは、昔、厠(かわや)の側に芳香剤として植えられていましたが、今では香りを楽しむ庭園樹として、東北地方以南で広く植栽されています。

秋が深まる中、散策していますと、風に誘われて、どこからともなく懐かしい甘い香りが漂ってきます。これが金木犀です。キンモクセイはモクセイ科モクセイ属の常緑低木で、対生する葉の付け根に橙黄色の小さな花をたくさんつけます。花は合弁花で、先端が4裂する整った形をしており、雄しべが2本、退化した短い雌しべが1本あります。1個の花を見ると、実にかわいい姿をしています。モクセイ属で日本に自生しているものに、ヒイラギ、リュウキュウモクセイ、ナタオレノキなどがあります。

中秋の満月が金色で鮮やかなのは、月の中の桂花が咲いたからだという中国の民話もあります。この民話は、月とキンモクセイの香りに深まる秋を感じさせ、中国のみならず、日本の秋の原風景となっていますね。(上村)

野鳥の世界

コミミズク

ミミズクは、坊主のような丸い頭の上側に、角のように見える耳毛があるものの呼称です。耳毛は小さく頭の上に短い耳毛が両側に見えるときがあります。

コミミズクは北方のアムール川周辺、カムチャッカ、中国東北部から冬期の寒気を避け渡来します。広島近郊にも渡来し、河川敷で冬期を過ごし、中国東北部に帰ると考えられています。広い草原を生活の場として、飛びながら地上のネズミ、モグラ、や昆虫を採食するコミミズクは、フクロウの仲間としては草原と林の境



コミミズク (大坪氏撮影)

に棲む珍しい種類です。初冬の河川敷は、低木が茂り、枯れた夏草も藪になって広がり、そこにはネズミ、モグラ、トカゲやバッタなどが生息しています。鳥達は同じ地域をうまく棲み分けています。早朝から昼近くまでは小鳥、続くようにしてムクドリ、モズ、ハトなど中型の鳥、夕刻からハイタカ、ハヤブサ、オオタカ、暗くなるとコミミズク、フクロウが採食活動をします。台風や豪雨などで河川が水で溢れ、多くの生き物が流されたり、ネズミやモグラの巣穴が全滅したときは多くの鳥たちも餌を求めて移動するようです。市内の公園や街路樹で見られることがあるのは河川敷の荒れた時です。ヒラヒラとゆっくり上下し波形に飛び餌を探しますが、地上に止まっているときは天敵のカラスやイタチを警戒しているときで、人が近づいても平気であることがありますが、そんな時が観察のチャンスです。（吉見）

昆虫の話

秋を彩る赤

秋が深まり山の樹々が紅葉し、田の稲穂が頭を垂れる頃、田んぼの上を群れをなして飛ぶトンボを見る事があります。アキアカネやナツアカネといった赤い体をしたトンボたちです。特にアキアカネは、水稻栽培という人の営みに上手く入り込んだ昆虫のひとつです。

アキアカネの卵は乾燥に強く、水のない田んぼで冬を過ごし、次の年に水が張られると幼虫が孵化します。水田は多くのプランクトンや昆虫を育み、アキアカネのヤゴはそれらを食べて育ちます。稲が青々と茂り始める6月頃、大きくなったヤゴは稲の茎にのぼり成虫へと羽化します。

羽化の時期が意外と早いと思いませんか？

アキアカネは羽化すると水田から姿を消し、山の方へ向かいます。そこで餌を取りながら過ごし成熟するので。

未成熟のアキアカネの体は黄色をしています。成熟して体の色が赤くなると交尾し、産卵するために、また水田へと戻ってくるのです。

日本の秋の象徴として、どこでも見る事のできたアキアカネの群れが、近年その数を急激に減らしています。それは水田の環境の変化が原因です。一つは農薬の変化です。農家は害虫に稲を食害されないよう農薬を使います。近年その成分が変わり、それがヤゴに強く影響するといわれています。また、中干しも大きな影響を与えているといわれています。近年はコシヒカリなどの早生品種が人気で、水田の水を抜く中干しの時期が早くなっています。ヤゴの状態でも水がなくなるとひとたまりもありません。

秋の景色として美しい、赤とんぼの群れと青い空、金色の稲穂の情景が見られなくなるのは少し悲しい気持ちです。（広島市森林公園こんちゅう館 藤井）



未成熟のアキアカネ

胸に入る3本の黒い横線のうち、真ん中の線が上部で尖る。ナツアカネとそっくりだが、上部が平たく切れることで見分けられる。

研修会のご案内

○ 10月1日(土) 『**広島県の竹と笹**』
竹・笹入門

10:00～12:00 学習室 集合
講師：西中国山地自然史
研究会会員 齊藤 隆登

○ 10月10日(土) 『**秋のきのこ教室**』
園内できのこを採集し、名前や食毒を知ろう
採集用かご持参

10:00～14:00 第3駐車場 集合
講師：きのこアドバイザー
川上 嘉章

○ 10月14日(金) 『**10月の自然探勝**』
どんな果実がみられるかな？

10:00～12:00 管理棟前 集合
講師：環境省希少野生動植物種
保存推進員
吉野 由紀夫

○ 10月21日(金) 『**庭木の手入れ**』
松のもみあげ他、講義と実習
剪定ばさみ持参

10:00～12:00 学習室 集合
講師：NPO 法人樹木医 ひろしま
工藤 徹

◎ 展示会

場所:レストハウス
(ガラスケース展示)

・**つづらふじ手作りかご作品展**
9月28日(水)～11月7日(月)

(ボード展示)

・**広島県の美しいキノコ写真展**
9月14日(水)～10月13日(木)

♪☆お知らせ・ご案内☆♪

秋のおでかけキャンペーン

10月1日(土)～11月13日(日)

隣接する市森林公園を巡るスタンプラリー

両園のスタンプを押して景品ゲット！

～**もみじ祭り**～ 10月29日(土)～11月20日(日)

鮮やかな紅葉をお楽しみください

期間中 もみじクイズラリーで景品ゲット！

～**もみじ祭りお楽しみイベント**～

11月3日(木・祝)

会場：レストハウス前

ネイチャーゲーム・クラフト・草花販売など



昨年の「つづらふじ手作りかご作品展より」



“もみじ祭りお楽しみイベント”より

～森林公園イベント情報～

・**オータムフェスタ** 10月1日(土)～11月20日(日)

期間中は、毎日開園で、園内の木の実や紅葉を観賞したり、各種イベントが楽しめます。

・**開園記念日「紅葉まつり」** 11月3日(木・祝)

詳細は、森林公園 H.P.電話等でご確認ください。